

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 0 回 相模原市地域交通活性化協議会		
事務局 (担当課)	まちづくり推進部 交通政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 9 (直通)		
開催日時	令和 7 年 6 月 1 1 日 (水) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分		
開催場所	ウェルネスさがみはら 7 階 視聴覚室		
出席者	委 員	1 8 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	1 2 人 (交通政策課長、外 1 1 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和 6 年度相模原市地域交通活性化協議会決算(案)について</p> <p>(2) 地域公共交通確保維持改善事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">①地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統補助・地域内フィーダー系統補助)に係る令和 8 年度計画認定申請について</p> <p style="padding-left: 20px;">②バリアフリー化設備等整備事業(ユニバーサルデザインタクシー・ノンステップバス)に係る生活交通改善事業計画について</p> <p>(3) 中山間地域におけるコミュニティ交通の再編について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) コミュニティ交通の令和 6 年度運行実績について</p> <p>(2) 相模原市総合都市交通計画の一部見直しについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>		

# 議 事 の 要 旨

## 1 開 会

## 2 協議事項

### (1) 令和6年度相模原市地域交通活性化協議会決算(案)について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(渡邊委員)歳入として、国庫補助金の地域公共交通確保維持改善事業費補助金とある。

市が実施している事業としては、生活交通維持確保路線、コミュニティバス、乗合タクシーと様々な形態があるが、これらすべてを対象として、約300万円の補助金を活用しているということか。

(事務局)ここで示している補助金は地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金であり、補助対象としているのは、生活交通維持確保路線のうち藤野4路線と名倉循環線、また乗合タクシーのうち吉野・与瀬地区乗合タクシーのみである。

(渡邊委員)それ以外の路線やコミュニティバス等については、補助対象ではないため、ここでの議論の対象外となるということか。

(事務局)そのとおりである。

(岡村会長)補助金の制度上、この協議会に補助金が振り込まれる仕組みとなっているため、当該部分について協議を行うものをご理解いただきたい。

(結果)出席委員の全会一致で同意。

### (2) 地域公共交通確保維持改善事業について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(渡邊委員)「地域公共交通確保維持事業」というのは、「生活交通維持確保路線」と言葉が類似しているが、違いについて教えてほしい。また、各補助対象路線について、目標値を定めているが、この目標値は、一般のバス路線の内、対象となる特定の区間のみを取り上げて設定しているのか。一般のバス路線であれば、大型バスが運行していると思うが、小型車両を運行させている路線があるため、目標値に差が生じているということか。

(事務局)「地域公共交通確保維持事業」というのは国の補助事業の名称である。今回、その補助金の内、「地域間幹線系統補助」と「地域内フィーダー系統補助」の2種類を活用したく、計画策定を協議いただくものである。また、「生活交通維持確保路線」は、あくまで市の事業であり、維持確保すべきバス路線と位置付けたものに対して運行経費の一部を公費負担しているものである。目標値の設定については、特定の区間を取り上げているものではなく、系統毎に利用者数に差があるため、実態に応じてそれぞれ目標値を定めている。

(岡村会長)目標値は、定義に基づいて系統毎に記載されているものであると理解している。その上で、本来はその目標値の妥当性を議論するところではあるが、先ほど事務局説明にもあったとおり、今後、中山間地域のコミュニティ交通再編に取り組んでいくということであるため、それを前提とした目標が設定されていると理解いただければよいと思う。なお、計画案の文章を読むだけでは内容が分かりにくく、一方で、国に提出する様式を前提とした資料について協議を行う必要であるため、難しい点もあるかもしれないが、制度上の不明点等があれば、個別に事務局に問い合わせいただきたい。今後も毎年、当該補助金を活用していくこととなると思うので、委員の皆様も理解を深めていただけるとありがたい。

(青山委員)申請等に係るスケジュールについて確認させていただきたい。今回、提出しようとしている申請書の対象期間はいつになるのか。既に内示が示されている中で、交付を受けるために必要な資料の調製を行っているという理解でよいのか。手順として、認定申請書の提出、補助金の内示、交付決定があり、その後、実際に補助金の交付を受けてから事業を実施すると思ったのだが、スケジュールや手続きの関係性について教えていただきたい。

(事務局)まず、今回の地域公共交通確保維持事業の対象は、令和7年10月1日から令和8年9月30日までに運行する部分となっている。当該補助金では、事前の補助額内示などはなく、例年6月までに認定申請書を提出し、国土交通省に計画を認定いただいた上で運行を行い、運行期間が終了したのちに、交付申請を行うこととなっている。また、バリアフリー化設備等整備事業については、事前に計画内容の協議を整えておき、内示があった場合にのみ申請を行うもので、令和8年3月までに対象設備等の導入があった事業所に対して、令和8年4月以降に国庫補助金が交付されるという仕組みとなっている。

(青山委員)事業を実施した後に国から補助金が振り込まれるということで、表現が正

しいか分からないが、事業費を一時的に立て替えて事業を実施するようなイメージの理解でよいか。

(事務局) そのとおりである。

(生田委員) 基本部分の確認をさせていただきたい。地域間幹線系統補助では3系統が示されている中、例として「橋本小沢・田名バスターミナル線」では、目標収支率が30%程度となっている。この場合、国に対しては残りの約70%を補助いただきたいといった内容になるのか。また、計画には、事業の総額、負担者及びその負担額を記載することとされているが、その補助対象経費の算出に際しても、収支率が約30%という前提で積算することとなるのか。

(事務局) 今回、当該補助金では3系統を対象としているが、当該系統には神奈川県からの補助金も活用させていただいており、国・県の補助金で賄えない部分については、市で補助することとしている。なお、目標収支率については、直近3か年の実績値を考慮し、将来的には補助金の圧縮が期待できるという視点で目標設定している。

(岡村会長) 当該補助金は、実際に掛かった経費ではなく、補助金算定のルールが定められており、そのルールに基づいて計算した額が交付されると伺っている。

(結果) 出席委員の全会一致で同意。

### (3) 中山間地域におけるコミュニティ交通の再編について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(岡村会長) 協議事項としては、部会の設置についてということだが、今後、この協議会において、具体的な再編案について協議していく予定であることから検討状況の報告があったものと理解している。確認だが、前回までの協議会でどの程度まで報告されていて、今回、どの部分が初めて説明された部分なのか。

(事務局) 前回までの協議会では、中山間地域がおかれている事情や再編にあたっての基本的な考え方として、乗合タクシーの運行範囲の拡大により路線バスをカバーしていく方向性を説明させていただいた。また、運行形態についても路線定期運行やセミデマンド、フルデマンド運行を組み合わせしていく考え方を報告させていただいた。

ていたが、具体的な内容まではお示ししていなかった。さらに、参画事業者について、現行の乗合タクシー運行事業者に加え、地域のタクシー事業者にも参画いただくことを検討中と説明をさせていただいたところである。

(岡村会長) 神奈川中央交通から相模原市に対して、協議の申出が提出されているとのことで、この10月から実証実験の実施を予定しているとのことである。実際の統廃合の時期は決まっているのか。

(橋山委員) 資料にも記載のとおり、相模原市と協議を進めており、地元への説明会も行っているところである。資料には、再編後の考え方が示されているが、相模湖～三ヶ木間など一部の路線は残るが、それ以外は残らないイメージである。これらは、令和8年度いっぱいまで路線の統廃合を行う予定と説明させていただいているところである。なお、相模湖駅～高尾駅を結ぶ路線については、既に神奈川県協議会に路線廃止申し出を行っている。こちらに関しては、今年度いっぱいでの廃止という形で申し出を行っているため、県の協議会において協議が進められるものと考えている。

(岡村会長) 今後の予定を含めてご説明があったが、まずはこの10月から実証実験を行うという素案であり、それを踏まえて、本日は、部会の設置について協議を行うということである。確認だが、10月からの実証実験に合わせて大幅なダイヤ改正を予定しているということはないか。

(橋山委員) 現在、市と協議を進めているところである。市としても、路線バスを全てそのまま運行しつつ、重複して乗合タクシーを運行すると、利用状況を正確に確認することができない懸念もあると考えられているため、運休や減便といった対応を行うことも含め、引き続き、市と協議を進めていく。

(岡村会長) そのような流れで、今後、頻度を高めて協議を行っていくこととなろうが、本日は、今後に向けて、現在の検討状況を報告いただいたということであり、併せて、停留所調整部会の設置について協議を行うということである。

(渡邊委員) 再編案について、路線定期運行と乗合タクシーを組み合わせて利用していくことになっていくのであろうが、2種類の交通モードとなるので、乗り換えが生じる可能性がある。その際の料金設定をどう考えているか。

(事務局) 料金体系については確定していない。地域説明では、基本的な考え方として、

現行のバス路線よりも高く、タクシーよりも安い設定とする考えを示している。再編後には、乗合タクシーで広範囲の移動が可能となり、エリアを跨ぐ際にも乗り換え不要で移動可能とするような形態を検討しているが、エリアを跨ぐ場合には加算料金を設定することを考えている。なお、併せて割引制度の導入も検討しているが、現時点では、具体的な内容は確定していないため、検討の進捗に応じて、協議会へも報告させていただく。

(宮野委員)藤野地区の自治会連合会長も担っているが、地域住民はまだ納得されていない部分がある。住民と行政との間での問題ということもあるので、行政には丁寧な地域説明を求めたい。乗合タクシーの場合、予約が必要となるが、例えば、通勤利用者に毎日予約させるのは違うのではといった意見もある。料金設定も行政内での検討が中心となると思うが、地域の学生が通学で乗合タクシーを利用する場合、家計への負担がこれまで以上に大きくなる懸念もある。今後、なるべく地域住民が納得できるような結論を出してほしい。

(事務局)地域説明の中でも、毎日バスを利用している方にとって、予約が必要な乗合タクシーへの転換は不便との意見をいただいております、そうした意見を踏まえ、資料にもあるとおり定時定路線運行も組み合わせて運行することを想定している。地域住民の意見については、乗合タクシーの利用促進協議会があり、地域代表者に参画いただいているため、引き続き、そうした場を通じて意見を伺ってまいりたい。また、10月からは実証実験の実施であり、本格運行まではまだ1年半ほど期間があるので、その間、必要な改善を行ってまいりたい。

(石原委員)検討経過について確認したい。今回の交通再編の取組は、生活交通の課題を主眼としているものであると理解しているが、観光への影響もあると認識している。前回の協議会では、観光への影響については、関係者と協議を行っていくとの説明があったと記憶しているが、これまでどのような協議を行ってきたのか、経過の説明をお願いしたい。

(事務局)観光面の課題に関する検討状況だが、まずは市内の観光所管部局と協議を進めている。当該取組の基本的な考え方は、生活交通を確保するというものであり、藤野駅～和田線など一時的な登山客需要がある部分については、観光部門で対応を検討いただいている。その他、観光客にも乗合タクシーを利用いただけると考えている。これまで、現行の路線バスや乗合タクシーの利用分析を行いながら、必要台数の検討等を進めてきているところであり、一時的に増大する需要については観光部局で検討いただいているということである。

(石原委員)現状、市役所内での検討を進めているとのことであるが、地元の観光協会との協議も必要ではないか。市としても中山間振興には力を入れていて、市外からの誘客は、重点目標にもなっていると理解しているので、来街者に分かりづらい制度となつてはいけないと思う。地元の観光協会との協議もお願いしたい。

(生田委員)昨日、ネットニュースでこの中山間地域再編の記事を見た。ネットに記事ができるような取組であり、全国的にも知られることとなっている。中山間地域の住民の足の確保は全国的な課題になってくると思うし、試金石というか、藤野地区が全国的にも取り上げられているということだと思つるので、是非、取組を頑張っていただけ、地域住民や観光客、事業者にとつてもよい取組となるようにしていただきたい。

(事務局)全国的にも注目される取組と認識している。引きつづき、地域住民や交通事業者との意見交換を重ねて、良い取組となるよう努力してまいる。

(岡村会長)当協議会の議事録は市のホームページも公表されているが、あくまでテキストベースでの議事録であり、協議会の資料、図面などは掲載がされていないため、協議内容の詳細を把握することが難しい状況にあると認識している。既に地域説明会を行っているということは、一部公になっている資料もあるということなので、是非、正式な場で資料等を公表していくことを検討していただきたい。また、10月から実証実験を実施するとのことだが、正式な統廃合までには少し時間的猶予がある。そうした中、地域住民に理解をいただくのは最低条件であり、令和8年度以降の最終形をどうするかという議論と、それまでの間、どのように移行して慣れていただくかということも重要である。観光についても、急にこの秋から変更というのは厳しいのであろうし、どのように移行していくかということが重要であるので、それも含めて、地域住民の意見を聞きながら案を提出いただきたい。

(事務局)資料の取扱いについては、他の審議会・協議会との関係性を含めた調整も必要となる。担当課の検討資料として公開するなど対応を検討してまいりたい。また、地域住民との合意形成については、引き続き取り組んでまいりたい。

(小堤委員)三ヶ木～月夜野線の取扱いについては、山梨県とも調整を進めているのか。

(事務局)山梨県と直接調整を行っている状況にはないが、道志村から問い合わせがあり、検討状況について情報共有させていただいている。

(岡村会長)再編については、次回以降、集中的な協議が必要となるため、資料の読み込みなど、各委員にもご協力いただきたい。本日の協議項目となる停留所調整部会の設置については、協議会形式の設置やその構成員等の内容について、事務局案のとおり対応することが求められているものと理解している。

(結果)出席委員の全会一致で同意。

### 3 報告事項

#### (1)令和6年度コミュニティ交通の運行実績について

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

意見等なし。

#### (2)相模原市総合都市交通計画の一部見直しについて

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(岡村会長)基幹路線、幹線路線の位置付けや内容がやや変更され、かつ明確になったという印象である。基幹、幹線、接続路線のいずれにも該当しない路線もあるということで、これらについても「その他」という名称でよいかどうかは別として、凡例に加えていただいた方がよい。

### 4 その他

事務局より次回以降の協議会開催スケジュールについて報告した。

### 5 閉会

以 上

## 相模原市地域交通活性化協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	岡村 敏之	東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授		出席
2	梶田 佳孝	東海大学 建築都市学部 土木工学科 教授		欠席
3	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事		出席
4	大島 雄作	一般社団法人神奈川県タクシー協会 相模支部 常任理事		出席
5	吉田 忠司	東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 企画総務部 企画部長		欠席
6	宇野 弘之	東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 企画部長	代理出席 企画総務部 経営戦略ユニット マネージャー 倉科 大地	出席
7	宮原 賢一	小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部 交通企画部 部長		欠席
8	濁澤 雅	京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部 計画担当 課長		出席
9	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画担当 課長		出席
10	三浦 裕介	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部 乗合事業担当 課長	代理出席 乗合事業担当 課長補佐 小出 満	出席
11	米山 淳	富士急バス株式会社 業務部次長		出席
12	青山 琢人	国土交通省関東地方整備局 建政部 都市整備課長		出席
13	宮本 雄一	国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所長	代理出席 専門調査官 栗原 功二郎	出席
14	加納 光博	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官(総務企画担当)	代理出席 運輸企画専門官 小久保 龍生	出席
15	馬場 広人	神奈川県警察本部 交通部交通規制課 都市交通対策室長		欠席

16	廣野 修一	神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課 副課長		出席
17	高橋 和彦	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局次長		欠席
18	宮野 善三郎	相模原市自治会連合会 副会長		出席
19	布施 昭愛	相模原商工会議所 理事 事務局長		欠席
20	小林 輝明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		欠席
21	石原 朗	公益社団法人相模原市観光協会 専務理事		出席
22	生田 修	公募市民		出席
23	渡邊 亨	公募市民		出席
24	杉浦 篤	相模原市 都市建設局 土木部長		出席
25	廣田 信之	相模原市 都市建設局 まちづくり推進部長		出席